

第2号様式（第4関係）

令和6年3月5日

調布市議会議員 井上 耕志様

提出者 調布市議会副議長 内藤 美貴子

視察等共通部分報告書

下記のとおり、視察（研修→視察研修）を実施いたしましたので、視察等個別部分報告書（第3号様式）を添えて報告いたします。

記

1 実施名称（テーマ）

これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて

2 実施期日（期間）

令和6年2月7日（水）午後1時30分から午後2時45分まで

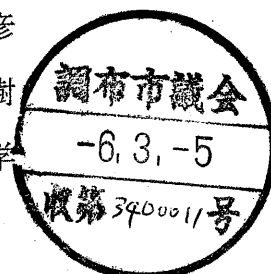
3 実施場所（視察先・研修会場） 全員協議会室

4 実施目的

調布市基本計画の施策の一つ「生涯を通した健康づくり」に係る歯と口腔の健康づくりの推進への参考とし、もって議員の政策の形成及び立案の能力の向上を図ること。

5 参加者の氏名（27人）

磯邊 隆	鈴木ほの香	田村ゆう子	青山 誠	山根 洋平
田中 謙二	沼田 亮	藤川 満恵	平野 充	榊原登志子
木下 安子	岸本 直子	古川 陽菜	阿部 草太	佐藤 堯彦
澤井 慧	大野 祐司	須山 妙子	内藤美貴子	川畑 英樹
丸田 絵美	清水 仁恵	井上 耕志	宮本 和実	伊藤 学
鈴木 宗貴	大須賀浩裕			



6 実施結果（視察概要・研修概要）

調布歯科医師会 会長 村田 功氏，調布市歯科医師政治連盟 会長 中村 陽一氏を講師に招き，「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」をテーマに講義を行っていただいた。その内容としては，以下のとおりである。

令和5年度を初年度とする調布市の基本構想の中に，歯と口腔の健康づくりの推進（様々なライフステージに応じた食育，歯と口腔の健康に関する普及啓発及び健康寿命の延伸に向けた健康づくりの取組を推進）が盛り込まれた。今後さらに歯科口腔保健に関する取組の必要性の高まりが予測される中，現在調布市で行っている歯周病検診や後期高齢者歯科検診などが地域での歯科口腔衛生事業に不可欠であり，健康寿命の延伸に有効な事業となっている。

2025年問題の主な問題として，人口減少と労働力の減少・少子高齢化・サービス業や医療福祉業などの人手不足，社会保障費・医療費や介護費などの負担の増加，医療介護体制の維持困難化，介護難民の急増などが懸念されている。調布市では，人口は今後緩やかに増加を続けることが予測されるが，徐々に増加幅は減少し，令和12年，2030年をピークに減少に転じることが見込まれている。

こうした状況の中，この2025年問題等における医療介護体制を維持するため，医療介護体制の維持，医療費の削減のためには健康寿命の延伸，すなわち介護を要する状態になる前段階の状態ですら予防するという介護予防を充実させることが最も重要な対策と考えられる。

介護予防対策における歯科医療の役割としては，幼少期からの健診や学校での検診の充実，8020運動の啓蒙活動などの成果により，現在は予防中心の歯科医療へと変化している。今後，これからの高齢化社会においては，歯の介護予防対策である口腔機能の回復を中心とする歯科医療へとシフトしていくと考えられる。介護予防を充実させる仕組み作りとして，また今後，高齢化社会に向けてかかりつけ歯科医院として何ができるのか，模索の段階ではあるが，地域包括ケアシステムを参考に，行政・議会とともにシステム構築をしていきたいと考えている。

加齢により心身が老衰えるフレイル状態においては，早く介入して対策を行えば，元の健常な状態に戻る可能性が高く，早期の介入が有効的である。口腔のフレイルのことをオーラルフレイルと呼ぶが，オーラルフレイルは身体に様々な悪影響を及ぼす。咀嚼嚥下機能の低下により食事の摂取がしづらくなると，栄養不良や体重減少を引き起こし，体力や免疫力の低下につながり，さらに口腔の健康状態，特に歯周病が悪化すると，心臓病や糖尿病などの慢性疾患や認知症のリスクが高まる。このようにオー

ラルフレイルが進行すると、日常生活に苦痛や不便が増え、生活の質の低下、社会的孤立を感じ、精神的にも悪影響を及ぼす可能性がある。そして、口腔の健康状態が悪化することによって、歯科の医療費はもちろん、全身の医療費の増加にもつながると考えられている。

しかし、様々なトレーニングを実施することによって、嚥下の機能や唾液の分泌量、味覚など改善することが明らかになっている。毎日の歯磨きの習慣はもちろんのこと、これからは口腔のトレーニングを指導することが重要である。

調布市では、口腔機能低下症を早期に発見するために、調布市後期高齢者歯科検診を行っている。この高齢者歯科検診で口腔機能低下の可能性や機能低下の診断となったら、歯科で口腔機能低下症・口腔疾患の改善につながるよう指導を行ったり、咀嚼機能や嚥下機能のトレーニングを参考に低下している機能訓練を指導している。調布市の後期高齢者歯科検診でその兆候を発見し高齢者の気付きにつなげて、低栄養やオーラルフレイル、誤嚥性肺炎を予防し、健康寿命の延伸・介護予防を充実させたいと考える。

一方、歯周病については、予防、治療を行うことで、全身の様々な病気のリスクを下げる事が可能となっている。歯周病と糖尿病は相互に悪影響を及ぼす。歯周病の治療を行うことによって、血糖のコントロールも改善され、血糖値も改善されると考えられている。また、アルツハイマー型認知症は、脳にアミロイドβというタンパク質が蓄積されることによって発症するとされています。近年の研究で、歯周病菌がアミロイドβの生産、蓄積を促進させることが分かってきた。認知症には根治薬がないことから、アルツハイマー型の認知症の発症を遅らせるためにも、丁寧な口腔ケアや定期的な歯科検診で歯周病予防を行うことが重要であると考えられる。さらに、誤嚥性肺炎の原因の多くの細菌の多くは歯周病菌が原因であると言われている。調布市の歯周病検診では、対象年齢を設けた個別通知によるものと、期間を限定した申込制のものがあり、歯周病検診の早期発見、重篤化の予防につながると期待される。

7 その他 特になし

8 実施結果に対する所感、意見等

視察等個別部分報告書のとおり

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	磯邊隆
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
「これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 一般社団法人調布市歯科医師会		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
2025 年問題…団塊の世代 800 万人が一斉に後期高齢者に。社会保障の負担増、働き手不足などの問題。人口の高齢化率は 30%にも。社会保障は 2050 年には高齢者一人に対して 1.2 人で支えないといけない。高齢者問題と合わせて医療従事者の不足、社会保障費の増加から高齢者の介護予防が大切。特に栄養素の入口にもつながるオーラルフレイルに関してはしっかりと対処すべき。口腔機能の衰えが全身の老化につながる。調布では 8020 運動（80 歳で 20 本の自歯がある）で対象が 100 人以上と大変良い傾向にある。 歯周病…プラークがたまることによって歯肉炎→歯周病となると歯を支える事もできなくなる。血糖コントロールも改善し、糖尿病にも効果。また歯周病菌は認知症にもつながる恐れがある。調布では都内トップの発症率の誤嚥性肺炎の原因の細菌は歯周病菌といわれており、ここでも歯周病のコントロールが大切と言われている。 歯周病検診が大切で、調布では 35・40・45・50・60・70 歳が対象に。実費になるが、年に一回でもやると良い。 口でものを食べる喜びは心身共に重要であり、健康で長生きするためには口腔衛生がなにより大切であると感じました。 ご講義を頂いた調布一般社団法人調布歯科医師会の村田医師、中村医師に感謝を申し上げます。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
なし		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴木ほの香
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
調布市では、乳幼児期から高齢期までのすべてのライフステージで歯科健診または歯周病検診、健康教育を実施しているほか、障害者歯科診療を実施している。歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関わりがあり、今後、さらに歯科口腔保健に関する取り組みの必要性が高まることが予測される。 後期高齢者がさらに増える一方、若い世代は減り、少子高齢化はさらに進んでいくと言われている。そのため、医療費や介護費などの社会保障費の負担増が懸念され、2050 年には 1.2 人で高齢者 1 人を支えなければならないと言われている。 高齢者の増加により、医療・介護人材のさらなる確保が必要になるとされている。そのためには介護職などの処遇改善、働き方改革が必須であると考えられる。保育士不足と同じように、介護の仕事に魅力がないからではなく、過酷な仕事に見合った処遇が保障されていないから人材不足になっていると感じる。 また、「オーラルフレイル」といい、老化に伴う様々な口腔の状態の変化に、口腔健康への関心の低下や、心身の予備能力低下も重なり、食べる機能障害に陥り、心身の機能低下にまでつながる現象がある。口腔の衰えは全身の老化につながるということを市民によく周知啓発して、歯の機能のトレーニングなどを日頃から習慣化してもらうことが重要であると思った。高齢者だけではなく、その下の世代にも知識として知ってもらうことで広まっていくのではないかな。		

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

健康寿命を延ばすための疾病予防、重症化予防の取り組み。

市の歯周病検診の個別通知に、55歳も対象とすること。

通うことができない人も診れるように、在宅検診できるようにすること。

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	田村ゆう子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 講師 一般社団法人調布歯科医師会 会長 村田功先生 東京都調布市歯科医師会政治連盟 会長 中村陽一先生		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 口腔機能の衰えが全身の老化に繋がること、介護を要する状態になる前段階で予防をする「介護予防」を充実させる必要があることが、よく理解できた。少子高齢化が進む中で、高齢の方がいつまでも健康でいられるよう、後期高齢者の歯科検診・歯周病検診の充実、早期の検診や周知啓発を行っていく必要がある。調布市の検診内容が実情に即しているか、今後も調査研究、意見を挙げていきたい。 一方で、高齢者が増えることによる社会保障費の負担増や働き手不足などの問題が先に来る論調には、どうしても疑問を持たざるを得ない。介護人材の不足は低すぎる介護報酬にも大きな問題があり、医師の時間外労働は上限規制をされて然るべきことである。増加する高齢者が、若者への負担となっているかのようなイメージを持ちかねない論調ではなく、高齢者が生活の心配無く自由に健康に生活でき、若者が金銭の心配無く子どもを生み育てられる、そのような社会にするべく日本の政治の在り方を抜本的に改善する必要があると感じている。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
若者が金銭の心配や育児の不安を感じることなく子どもを生み育てられるようにするには、どのような政策が必要か。 若者と高齢者の分断を生むような論調ではない、共生社会の充実。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	青山 誠
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
2025 年問題では、人口と労働力の減少の一方で、社会保障費の増大もあり、医療体制の維持困難が指摘されている。その中で、歯科領域では単なる歯の治療から、予防的な観点からのフレイル対策や口腔機能の回復が注目されている。フレイルに関しては早期の介入が有効との指摘があり、歯科領域でもオーラルフレイルに対して咀嚼、嚥下機能の低下に対する口腔トレーニングを行い、口腔機能低下症に対する対抗するよう指導しているとのことであった。80 歳で 20 本以上の歯が残っている市民を表彰する 8020 表彰についても調布市内では当初は 1 桁ほどしかいなかったものの、現在では 100 名を超える表彰があるとのことで、高齢者の歯のケアについての関心が高まっていることを感じた。 また、歯周病は歯の健康を脅かすだけでなく、糖尿病などの全身疾患や認知症に関わるというエビデンスもあり、歯周病検診の重要性が強調されていた。さらには、誤嚥性肺炎の原因となる細菌の多くは歯周病菌であるという指摘もあり、歯周病のコントロールが体全体の健康に重要な役割を果たしていることが分かった。 私のほうからは、一点「調布市の行政で歯科医療に関してまだ足りていないと思う部分」について質問を行った。回答の 1 点目は、歯周病検診を 35 歳・40 歳・45 歳・50 歳と来て、55 歳の検診がないため、55 歳検診を追加してほしいということであった。2 点目は、歯科検診の期間について現在は期間が決まっているが、これを通年にしてほしいとのことであった。3 点目には、歯科検診でオプションとしてレントゲンを撮れるようにしてほしいとのことであった。このレントゲンについては、自分の骨の状況が客観的に		

見ることができるため、検診を受けた方のモチベーションにもつながるのではないかということであった。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

上記の通り

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	山根 洋平
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
調布市歯科医師会 これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 高齢化の進展により、2040 年には団塊ジュニアの世代が 65 歳以上となり、総人口の約 35% が 65 歳以上となることが推計されている。こうした状況の下、地域包括ケアシステムの枠組みの中で、オーラルフレイル対策を実施することで、介護予防を充実させることが重要な取組となってくる。オーラルフレイルとは、老化に伴うさまざまな口腔状態の変化に加え、口腔健康への関心の低下や心身の予備能力低下も重なり、口腔の脆弱性が増加し、食べる機能障害へとつながり、さらにフレイルに影響を与え心身の機能低下にまでつながる一連の減少及び過程をいう。口腔健康の悪化の例として、歯周病が挙げられるが、糖尿病や認知症、誤嚥性肺炎との関係も指摘されており、口腔健康の維持が高齢者の健康維持のために重要な取組となる。 調布市においては、調布市歯周病健診や後期高齢者歯科検診という形で歯科検診を実施している。歯周病健診の受診期間を通年化する、あるいはレントゲン検査を内容に追加するといった充実が図られれば、より早期に発見できるようになるとの意見をいただいた。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
歯の健康を維持することが、健康寿命の延伸にもつながる重要な要素になるということがわかった。歯の治療だけではなく予防的な観点からの健康維持のための取り組みの具体策について、今後研究していきたい。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	田中謙二
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
(1) フレイル対策 「早く介入して対策を行えば元の健常な状態に戻る」との指摘は、一定程度認知されているのではないかと。一方、「言うは易し」で、この 4 年、コロナ禍で体を動かす総量が減少した後期高齢者の皆さんへのサポートが引き続き課題と思われる。保健師さんなど、専門家の知見も借りながら、特に健康管理に受動的な高齢の方々に対しては、知恵を出していかなければならない。歯周病検診も同様だが、フレイル対策についても、まずは「自分事」と受け止めてもらうことがすべての出発点であって、次にモチベーション維持への後押しとなる。 自治会メンバーの減少にみられる通り、近隣とのつながりが希薄になっていく傾向に課題があるなか、あらゆる機会を通じて「自助」を促す作業に知恵を出していかなければならない。困難な課題である。 (2) 歯周病検診 市では歯周病検診の対象者を 35 歳、40 歳、45 歳、50 歳、60 歳、70 歳の人には個別通知をし、それ以外の 20 歳から 59 歳までの人は申込制で行っている。そのほか、二十歳女性に子宮頸がん検診と合わせて、歯周病検診の受診勧奨通知を送付し、令和 4 年度からは二十歳男性にも受診勧奨通知の個別送付を開始している。総じて予防歯科に向けて手厚い周知啓発はできていると感じる。一方、今後の課題は受診率の向上である。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
歯周病検診の受診率をいかに上げていくのかが課題と認識。平成 29 年度から令和 3 年度の受診率平均で見た場合、35 歳男性が 6.2%、同年齢女性が 12.7%。その他の年齢の受診率も総じて低い。まずは、受診率向上に向けての成果があった他市事例などを調査し、提案していきたい。また、個別通知が 35 歳からとなっているが、歯科医師会村田会長に質問したところ、もう少し早い年代から受診することが推奨されるとの見解であった。その点もあわせて調査したい。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	沼田 亮
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
2025年問題、2040年問題と今後ますます超高齢化社会が訪れてくる。社会保障費の負担増や労働人口の減少による医療・介護体制の維持の困難化が予想される。医療・介護体制の維持のために介護を要する状態になる前段階の状態です。予防する「介護予防」が重要となる。フレイル予防、特にオーラルフレイル予防は高齢者の健康状態を保つために必要不可欠である。歯周病は認知症や糖尿病、肺炎を引き起こす要因にもなりえる。 調布市では調布市後期高齢者歯科検診（口腔清掃状態、咬合力検査、咀嚼機能検査、嚥下機能検査）や調布市歯周病検診が行われているが、検診により市民一人一人が自らの口腔内環境を把握し、予防・改善に努めることが非常に重要である。今後の行政として、切れ目ない検診の機会を拡充していく必要があると感じました。一人でも多くの市民の口腔内環境を良好に保ち、市民の健康促進に努めるべきである。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
歯科に限らず、フレイル予防を促進することで、医療費抑制につなげる。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	藤川 満恵
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 講師：調布歯科医師会 村田 功 会長 調布市歯科医師政治連盟 中村 陽一 会長		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関わりがあり、今後さらに歯科口腔保健に関する取組の必要性が高まることが予測されることから生涯を通じた施策の更なる推進が必要であることを学ばせて頂いた。 本市では第 6 次基本構想施策の中で、歯と口腔の健康づくりの推進より乳幼児期から高齢期までの全てのステージで、歯科検診又は歯周病検診、健康教育を実施しているほか、歯科医師及び歯科衛生士における障害者歯科に関する知識の習得や技術の向上を図るため、障害者歯科診療も実施している。 2025 年問題、いわゆる団塊の世代 800 万人以上全員が 75 歳以上となる超高齢者社会が訪れることで生じる社会保障費の負担増や働き手不足などの問題が生じてくると言われている中、医療・介護体制の維持や人材の更なる確保が必要となるが、労働人口の減少や 2024 年からは医師による時間外労働の上限規制が施行される予定もあり医療体制の維持は難しくなると思われる。さらに 2040 年問題になると団塊ジュニア世代が 65 歳以上になり全人口の 35% が 65 歳以上となる時代をむかえる。 そうした中で、介護を要する状態になる前段階の状態ですら予防する「介護予防」を充実させることが必要である。高齢者が介護を必要とする主な要因は身体的な衰えであり、度合いによってフレイルと呼ばれている。フレイルとは「加齢により心身が老い衰えた状態」のことである。しかしフレイルは早く対策をすれば元の健康な状態に戻る可能性があるものである。		

オーラルフレイルでは老化に伴う様々な口腔の状態（歯数・口腔衛生・口腔機能など）の変化で口腔の脆弱性が増加し、心身の機能低下まで繋がる一連の現象であり、高齢者に特有の健康問題であり口腔機能の衰えが全身の老化にもつながるとされている。

本市の後期高齢者歯科検診では、口腔清掃状態、咬合力検査、咀嚼機能検査、嚥下機能検査を実施し、口腔機能低下症の方には7項目にわたり、イラストなどでも分かりやすく指導している。

また、歯周病が認知症のリスクを高めていることや、誤嚥性肺炎の原因である細菌の多くが歯周病菌であると言われており、歯周病の予防が特に重要である。

本市では歯周病検診を35・40・45・50・60・70歳で実施しているが、今後更に検査年齢の拡充については調査研究が必要である。

防災の観点では、元旦に発生した能登半島地震の被災地の避難所においては、口腔衛生の悪化が様々なウイルスの感染にも繋がったとの結果もあり、今後本市においては防災備蓄に、子ども用の歯ブラシも含む衛生用品の見直しや口腔衛生を守ることが結果的には市民の健康を守り感染予防にも繋がるとの意識で取組んでいきたいと考えるものである。

結びに、80歳以上で20本以上の歯がある方を表彰する「8020・9020表彰」の取組など市民への啓発活動に厚く御礼申し上げるものである。

3 その他(今後の課題・調査研究すべきテーマ等)

文中に記載

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	平野 充
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
演題 これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 講師 村田 功 氏・中村陽一 氏 於：調布市議会全員協議会室		
2 実施結果に対する所感，意見等 (質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等)		
2040 年に向け介護予防に努めることが重要であることは言うまでもないが、中でも歯のメンテナンスも極めて重要であると感じた。現代は治療において極力抜歯をせず治療で歯を残す努力をされているとのこと。調布での 8020 事業も成果が出ており、毎年 100 人以上の達成者がある。 今後 2060 年に向かって高齢化率は伸びていくが、2024 年からは医師に時間外労働の上限規制が施行される。フレイル予防の中でもオーラルフレイル予防は極めて重要であると感じた。歯があることにより話をすることや唾液が分泌されるなど、健康維持のために歯は要となることが講義を受けたことにより改めてよくわかった。 認知症（特にアルツハイマー型認知症）と歯周病の関連、肺炎と歯周病も深く関係する。最終的な死因でも肺炎は多い。歯周病菌が誤嚥で肺に入ってしまう。 かかりつけ医と行きつけ医の話も興味深く感じた。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
講義終了後に質問会もあったが、時間制限のため質問は出来なかったが、今回の講義を受けながら私が感じていたことは、やはり能登半島地震での現地の方々の災害関連死のことだった。災害関連死を防ぐ大きな要因は口腔ケアでした。これはニュースでも多く報道されているが、災害時に衛生的な水が不足することにより、歯磨きやウガイができない。入れ歯の人は入れ歯を洗うことができない。口腔が不衛生になり菌が誤嚥等で肺に入ってしまう。これらを防ぐには歯科医や歯科衛生士の存在と活躍なしには勝ち取れない。しかし、医師団の活動はイメージとして前面に出てくるが「歯」や「口腔」は後回しになっているような気がする。医師と同等に同じスピードで被災者を		

診ていく「常識」を打ち立てていかななくてはならないと思った。「予防」というイメージが災いしているのだろうか？

口腔ケアの課題を具体的な体制やしきみ、ルール立てしていく必要を感じた。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	榊原 登志子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和 5 年度議員研修 「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 講師 調布歯科医師会 会長 村田 功 様 調布市歯科医師政治連盟 会長 中村 陽一 様 ※ このほか、補助として数名		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） ○医療の進化に伴い、日本では世界の中でも上位の超高齢社会となった。また、皆保険制度により誰もが安心して医療を受けられることも超高齢社会となる要因であり、幸福度が高い。身体が不調になる前から予防として診療もらうことが出来ることも感謝するものである。では、歯に対しては、どうだろうか。 以前、アメリカ人から聞いたことだがアメリカ人は、とても歯を大切にしているとのことだった。なぜなら歯の汚い人は人としての価値が下がるということのようだ。30 年程度前に聞いた話だが日本も「歯が命」という言葉も流行しており日本でも歯について 80 歳までに 20 本、自分の歯を残そうという動きはあったような記憶である。日本人は、歯についての関心は、どうだろうか。永久歯になって 40 歳頃に急に歯を大切にしても遅いことであり、永久歯が生え揃う前から歯を大切にすることだと考える。しかし、おろそかにしてしまうことがある。それは虫歯などになった場合に歯科医に診療してもらうことが出来、すぐに美味しい物が食べることが出来るようになるからだ。歯科医の技術と皆保険のおかげと感謝をしている。 神話的な話だがなぜ、神さまは、永久歯は一回だけとしたのだろうかと思ってしまう。皮膚の傷や骨折、内臓などは外科的手術により治癒するが、歯は、虫歯		

になって永久歯を抜歯抜すると二度と生えてくることはない。爪や髪の毛は死んだ細胞と言われ切っても痛くない。歯も歯の面なども削っても痛くない。歯も再生というべきか虫歯化した表面が整えられると嬉しいのだが、そのようにはいかないので歯科医療の出番である。

自らで再生出来ないことであるから、永久歯をまもるために虫歯予防に努めなければならない。歯を失い健康を害すのは本人であり、歯と口の健康をまもるのは本人が意識して歯磨きなどにより管理することがまず、1番である。

また、歯周病は中等度から重度になるまで症状が現れにくく気がつかずに進行するケースが多いということからも、予防歯科、定期的な歯科検診などによって口腔ケアをする事である。なんでも食べることが出来ることは端的に言っても幸せな事である。また、身体を健康に保つことにも大変、重要である。食べる事から身体がつくられ健康に保つことを考えれば、なんでも支障なく食べることが出来る口腔を維持しなければならない。

以前、自分の歯を徐々に失い総入れ歯になった方から聞いた話だが、「自分の歯で食べていた頃からすると、総入れ歯だと味が違う、また、美味しくない」ということだった。なんとなく理解できることであり、やはり最期まで自分の歯で食事を楽しみたいものである。

国は国民皆歯科検診制度の導入を 2025 年に導入をめざしており、調布市でも令和 6 年度に歯周病健診の実施の拡充を行う。国民皆歯科健診の推進により、口腔健康が健康寿命の延伸、そして国全体の医療費削減につながる。また、「歯科疾患実態調査」も新規に予定されているようであり、我が国の歯・口腔の健康状態をより正確に把握することができ、注目されている。着実な歯科健診の実施とともに、歯科健診後の必要な歯科治療や歯科保健指導へつなげ、歯科疾患の予防・重症化予防と健康増進、健康寿命の延伸を進めていくことが不可欠であると考え

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

訪問歯科医療を行う。

○歯科診療は、機械などが必要だと思うので治療に必要な機械を装備した専用の診療カーなどで治療が出来るかを検討する。

○地域で支える歯科医療として、診療所や地域包括支援センターなどでも歯科医療・予防歯科を行うことができるようにするための調査研究を行う。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	木下安子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
2024 年 2 月 7 日（水）13：30～ 於 全員協議会室 「これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 一般社団法人調布市歯科医師会 中村先生・村田会長		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
現在全国に 800 万人いる団塊の世代が全て後期高齢者になる 2525 年の問題は、その年にとどまらず、その後さらに人口と労働力の減少、社会保障費の負担増、医療・介護体制維持の困難化へとつながる。その 15 年度、2040 年には、今度は団塊ジュニアが 65 歳以上となり、さらに高齢化が急速化し、2041 年には生産年齢人口が 6 割を切るという深刻な状況が予測されている。こういった先を見据える中で、医療費を削減するには健康年齢の延伸が必要であり、オーラルフレイルを食い止めることが重要であることが語られた。 口は第一の消化器官とも呼ばれ、歯が抜けるときちんと食べられなくなったり、話すことにも困難が生じる。また歯周病で出る毒性物質が様々な病気の要因にもなるということで、歯周病予防の診察も大切であることが理解できた。 市内の現状としては、障害者の患者の増加、患者の高齢化、ケアラーの高齢化が激しく、通うことが難しい人が増えていることが共有された。医ケア児の中には、在宅でないといけない人たちもいるので、往診を充実させる必要もある。満遍なく治療ができるように、往診ができるようにするため、条例改正の要望があった。生活困窮者支援で感じるのは、セルフネグレクトから健康を害しがちな人が多いこと、特に歯の健康には無頓着な人が多いことだ。一人ひとりの健康維持は将来の医療費負担に直結する問題なので、そのいった意味でも口腔ケアの重要性についてもさらに学んでいきたい。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
2 に記載		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	岸本 直子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ） 2024 年 2 月 7 日（水） 「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 講師 一般社団法人調布歯科医師会 会長 村田功先生 東京都調布市歯科医師会政治連盟 会長 中村陽一先生		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
●口腔機能の衰えが全身の老化に繋がること、介護を要する状態になる前段階で予防をする「介護予防」を充実させる必要があることは理解できたが、アルツハイマー型認知症を患い約 1 2 年前に亡くなった父の口腔内は、発症する前からすべての歯がそろっており歯周病にもなっていなかった。 認知症が重症化するにつれ、病院や介護施設にお世話になる中で、認知症の症状からくる「食いしばり」「歯ぎしり」などの影響もあって口腔内の衛生状態が悪化し、奥歯が抜けてしまう状況になったのを体験したため、健康な状態を病院や介護施設でどう保っていくのかは課題であり、人手を充足させる必要性は急務と当時感じていた。 ●少子高齢化が進むもとで、高齢者の健康を保つためには、歯科検診・歯周病検診の充実、早期の検診や周知啓発を行っていくことが重要だが、高齢期になってから行うのではなく、乳幼児～小中学生～高校生～大学生などの若者世代～働き盛り世代～高齢期と、すべての世代へ徹底させる重要性をあらためて認識した。 社会保障費の負担増や働き手不足などの問題提起もされていたが、医療分野でも介護分野でも、人を育てること、仕事を引き継いでいくこと、自らのスキルを上げていくことなど、どれをとっても、現代社会の中でそれらが不十分な状況にあるのではないかという認識を持っている。 兄弟に医師がおり「働き方改革」という方針の下で何が行われているかと言えば、時間の都合のつくベテランの医師の夜勤が倍以上に増えるという実態		

も見てきた。医師の時間外労働は当然、適正に規制されるべきであり、医師不足を社会全体で解決していく必要があると考える。

●近年の社会保障に関する流れでいうと、増加する高齢者が若者への負担となっているかのような報道なども度々されているが、本来なら、どの世代であっても、生活の心配も健康面での心配もなく、いざという時に頼れる医療体系をきっちりと作っていくことが政治の役割であり、そのために基礎自治体もがんばる必要があると考える。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

●人権意識を向上させるための学びを行うべき。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	古川 陽菜
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和 5 年度調布市議会議員研修 「これからの超高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 調布市歯科医師会 村田功先生・中村陽一先生		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 今回の研修では、生産年齢人口 1 人で高齢者 1 人の社会保障費を賄わなくてはならなくなる将来の超高齢化社会に備えて、生産年齢人口の経済的負担を軽減するために口腔ケアによる予防の重要性についてお話を伺った。 歯周病予防施策として、市の歯周病健診では法定の 40・50・60・70 歳に若年の 35・45 歳を加えて個別通知が行われているが、55 歳や 65 歳には個別通知が無く、また受診率も令和 2～4 年度では 8 % 弱と他の健診に比べて低いため、担当課に理由を確認し、需要が見込まれるようならば個別通知の拡充を要望したいと考える。後期高齢者歯科健診については、後期高齢者の中には歯科健診のために外出することが困難な高齢者も多く存在していると考えられ、近隣自治体では往診を行っている自治体もあり、お話の中から調布においても受診に出掛けるのが困難な後期高齢者には往診を行う必要性を感じたため、こちらにおいても担当課に往診を導入する上での課題を伺いたいと思う。 また、小島町歯科診療所で行って頂いてる障害者歯科は、医療的ケアが必要な患者の増加や障害者本人や家族の高齢化により、通院が困難な患者も多く、こちらでも往診の必要性を伺った。 そして現在、休日診療は市内の病院での持ち回り制になっているが、患者にとっては市内の遠い地域にある病院まで行くことは難しく、常設の医療センターで診られるようにした方がいい、と伺い、小島町歯科診療所が移転するならば新しい診療所では休日歯科診療も行えるよう、今後の動向を注視し、要望していきたいと考える。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		

本文中にすべて記載。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	阿部 草太
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
研修では、歯科医療の重要性・現状と将来的な課題について講義いただきました。 歯科医療の重要性として、口腔のみではなく全身の疾患につながる事から重要であるとの事。 歯周病と糖尿病の関係や認知症や肺炎と言った高齢者の健康寿命に直結するものに対しても重要であり結果的に医療費の抑制につながる事もある。 今後の歯科医療の課題として、医療費の面と医療従事者不足が挙げられていました。 2025 年問題や 2040 年問題でも医療体制を維持するためには予防を充実させる必要がある。 オーラルフレイル予防を行う事でリスクを低減させられるとの事でした。 講義後の質疑では、新たな総合福祉センターにおける歯科医療への要望もありました。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
歯科医療の重要性の周知と検診や、市として行える歯科医療の整備に関して新たな総合福祉センターでのハード面やソフト面も含めて進めていく事が必要だと考える。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	佐藤 堯彦
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
「令和 5 年度議員研修「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」」		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
今回の研修では、歯科医師会の先生方から高齢者向けの歯科診療の重要性、特に口腔ケアについて詳しいお話を聞くことができた。高齢化によって社会保障にかかる費用がうなぎのぼりに増大する中、「治療」ではなく「予防」を徹底することは医療費の抑制に繋がるものである。口腔ケアをしっかり行うことで高齢者の健康寿命が延びる、というお話は大変興味深いものだった。研修後に聞いたところだと、歯が残っている本数が多ければ多いほど、寿命が長くなるというデータが報告されているとのこと。国民健康保険特別会計が慢性赤字化する中、医療費をいかに抑えていくかという命題に対してひとつの知見を得られた、という意味で大変有意義な研修だった。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
歯科医師会の提言を聞きつつ、医療費の抑制につながる施策を検討していくべきと感じた。また、このような研修の場は我々議員にとって大変有意義であることが再認識できたので、是非今後もこのような専門家の知見を伺うことのできる研修の場があった方がよい。医師会、薬剤師会など、医療・健康・福祉に関わる分野の専門家を招いての研修の定期実施を検討すべき。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	澤井 慧
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
調布市市議会議員研修会（令和 6 年 2 月 7 日）		
これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 本研修会は一般社団法人調布市歯科医師会 村田功会長 及び 東京都調布市歯科医師政治連盟 中村陽一会長が講師となり、「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」と題して、開催された。 健康で質の高い生活を営む上で、歯と口腔の健康の保持・増進は基礎的かつ重要な役割を果たしています。歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関わりがあり、今後さらに歯科口腔保健に関する取組の必要性の高まりが予測されることから、生涯を通じた施策の更なる推進が必要である。 ■ 超高齢社会の到来 2025年問題 団塊の世代800万人以上が後期高齢者となる。高齢者が増えることにより、社会保障費の負担増や働き手不足などの問題が生じる。 2040年問題 団塊ジュニアが65歳以上になり、全人口の約 3 5 %が65歳以上となる。 ■ 超高齢社会による課題 社会保障費の増大 少子高齢化の進展と併せて、社会保険料が右肩上がりになっている。1965年に高齢者一人を9人で支えていた社会保険料を2050年には1.2人で支えなければならないことから、現役世代の社会保険料の負担増が大きな課題となっている。 医療・介護体制の維持が困難 高齢者・後期高齢者・認知症高齢者の増加により、医療・介護人材のさらなる確保が必要だが、少子化に伴い、担い手不足が加速していくことが予想される。また2024年からは、医師に時間外労働の上限規制が施行される予定でもあり、医療体制の維持がより一層困難となることが予想されており、社会保障制度の継続自体が危ぶまれている。 ■ 対応策 2025年問題や2040年問題などの社会課題に直面する中においても、医療・介護体制の維持のためには、介護を要する状態になる前段階の状態ですら「介護予防」充実させることが重要である。健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと一般的に「フレイル」と呼ばれるが、口腔機能の衰えが全身の老化や心身の機能低下にまでつながる事を「オーラルフレイル」と呼ぶ。オーラルフレイル予防のために、調布市では調布市後期高		

齢者歯科検診を行っている。

具体的には、口腔清掃状態、咬合力検査、咀嚼機能検査、嚥下機能検査などの検査からなり、口腔機能低下の早期発見に寄与している。また歯周病は誤嚥性肺炎にもつながることや認知症の発症にも影響を与えるとされているため、歯周病検診も合わせて重要である。

■ まとめ

口から食べるということは、命をつなぐための大切な営み生きる幸せ・喜びを感じる宝物であることから、日々の歯科健診は行った方がよい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大野 祐司
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 調布歯科医師会 会長 村田 功 様 調布市歯科医師政治連盟 会長 中村 陽一 様		
2 実施結果に対する所感、意見等		
（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等） 歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関わりがあり、今後、さらに歯科口腔保健に関する取組の必要性の高まりが予想されます。 2025 年問題として、団塊の世代 800 万人以上全員が 75 歳以上、つまり後期高齢者となります。高齢者が増えることにより、社会保障費の負担増や働き手不足などの問題が生じてくると言われています。 調布市の将来人口は今後も緩やかに増加を続けることが予想されるが徐々に増加幅は縮小し、令和 12（2030）年に減少に転じると言われています。 そんな中で、高齢者人口の増加、生産年齢人口の減少が進み、社会保障制度自体が立ち行かなくなることが考えられます。 この社会保障制度の医療費・介護費の増加を抑える点について、歯科医師側から提言するのは、歯周病の予防が極めて重要であることが、先生の説明で理解しました。 歯周病は、全身疾患につながります。歯周病の治療で血糖コントロールが改善され、糖尿病予防につながります。 歯周病は、認知症にもつながります。 高齢者になると、誤嚥性肺炎を発症しやすいようですが、誤嚥性肺炎の原因となる細菌は、歯周病菌であると言われており、誤嚥性肺炎の予防には歯周病のコントロールが重要と言われています。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
このセミナーから、歯周病予防が重要なことがわかりました。 調布市の歯周病健診の周知と受診率向上が重要であり必要と感じました。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	須山妙子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
調布市議員研修 これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 一般社団法人調布市歯科医師会		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
1987 年の調査では 15 歳から 19 歳の 97.5%が虫歯を有していた。現在の 55 歳以上の世代である。この数字をみると、今後予測される超高齢社会にあって歯と口腔の健康づくりの推進が社会の課題となっていくことがわかる。 ご講演の中でも歯周病菌で脳内のアミロイド β が 10 倍に高まり、アルツハイマー病の発症に影響を与える可能性があること、また、誤嚥性肺炎の罹患率が 3.1%と東京の中でも最も高い部類であること、さらに歯周病菌は完治しない、だからこそ検診でケアし続ける必要があるとのお話は驚きと納得をもって受け止めた。 人生 100 年を健康寿命伸ばしていけるかどうかは口が最も重要であるとのことだ。予防こそ総合的医療の推進であるのだが、予防歯科には健康保険がきかないなど多くの課題があることをうかがった。 中でも在宅介護など家から出にくい高齢者の歯科検診は喫緊の課題である。今回示された訪問検診と歯周病検診を 65 歳も対象にしていくことについては、市として課題を認識し検討していかなければならないと考えた。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
前述		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	内藤 美貴子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和 5 年度 調布市議会議員研修		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
講 演：これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 講 師：調布歯科医師会 会長 村田 功氏 調布市歯科医師政治連盟 会長 中村 陽一氏 調布市第 6 次基本構想 施策 1 1 生涯を通じた健康づくりの中に「歯と口腔の健康づくりの推進」が盛り込まれた。東日本大震災では、長期化する避難所生活において口腔ケアの重要性が認識され、あらためて歯と口腔の健康が全身の健康を保つことに繋がっていることから、生涯を通じた施策のあらなる推進が必要だといわれている。 また、今後の日本の現状を見ると、2025 年には団塊の世代 8 0 0 万人以上全員が 7 5 歳以上の超高齢社会が訪れることで、社会保障費の負担増や働き手不足の問題が生じてくるといわれている。その理由として、1 つ目は、人口と労働力の減少で、日本の高齢者人口及び割合の推移をみると後期高齢者が急増しており、2023 年の高齢者人口の割合は 29.1%で 2060 年には 40%に増加。一方、若い世代が減少し、少子高齢化がさらに進むと予測されている。さらに、2030 年の人手不足の推計では多くの業種で人手不足になり、特に医療・福祉やサービス業などは大幅な人手不足が予測されている。 2 つ目は、医療や介護等の社会保障費の負担増で、1965 年では高齢者 1 人に対して 9.1 人で支えていたのが 2025 年には 2.0 人、2050 年には 1.0 人で支えなければならないことから、2012 年の社会保障費が 109.5 兆円だったのが 2025 年には 140 兆円の社会保障費が負担増になると予測されている。 3 つ目は、医療・介護体制の維持の困難化で、高齢者・後期高齢者・認知症高齢者が増加することで、医療・介護人材のさらなる確保が必要になるが、2025 年では確保できる人材が約 211 万人、必要な人材は約 245 万人で約 34		

万人が不足するといった労働人口の減少や 2024 年から医師の時間外労働の上限規制が施行される予定からも医療体制の維持が難しくなるといわれている。さらに、2040 年には、団塊ジュニアが 65 歳以上になり、全人口の約 35% となり、さらなる社会保障費の負担増や労働力人口の減少、それに加えてインフラの老朽化も発生するといわれている。

調布市を見ると、将来人口は緩やかに増加傾向だが、令和 12 年以降は減少に転じていくと予想されている。

こうした、2025 年問題や 2040 年問題となる医療・介護体制を維持するためには、介護が必要になる前段階の状態で予防する「介護予防」を充実させることが重要だが、口腔機能が低下するオーラルフレイルは要介護新規認定リスクが 2.4 倍高いことが明らかになっている。フレイルは、加齢により心身が老い衰えた状態のことだが、早めに対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性があるが、オーラルフレイルの場合は、食べる機能の障害によって運動障害等のフレイルに影響を与え、心身の機能低下にまでつながる一連の現象及び過程であり、つまり口腔機能の衰えが全身の老化に繋がることが認識できた。

また、歯周病の治療で血統コントロールの改善、歯肉の炎症が引くとインスリンが効きにくい体質が改善されるとのこと。さらに、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症になると予測をされているが、歯周病がアルツハイマー病の発症に影響すること。誤嚥性肺炎の原因となる最近の多くは歯周病であるといわれており、予防には歯周病のコントロールが重要であることもりかいできた。

調布市では、歯周病検診も実施されているが、高齢になっても健康を維持するために検診の受診率を向上させることや、口腔ケアの重要性についても広く市民への啓発活動が重要であると認識した。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	川畑英樹
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 令和 6 年 2 月 7 日一般社団法人調布市歯科医師会		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 調布市第 6 次基本構想・施策 11 生涯を通じた健康づくり～歯と口腔の健康づくりの推進～のなかで、歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関りがあり、今後、さらに歯科口腔保健に関する取組の必要性の高まりが予想されることから、生涯を通じた施策の更なる推進が必要とあります。 高齢者が急増する一方で、若い世代が減少し、少子高齢化が進み超高齢社会となっています。このまま進めば、2025 年には高齢者 1 人対し生産年齢人口 2 人支えることになり、2050 年には高齢者 1 人対し生産年齢人口 1 人なり、社会補償費負担が経ちいかなくなり、医療体制維持は難しくなると考えられる。すなわち、健康を維持していく事こそ、総合的に医療費の抑制につながるのではないだろうか考える。さらには、2025 年問題、2040 年問題での医療・介護体制の維持のために「介護予防」を充実させることが将来の人材不足につながるとしている。オーラルフレイル対策を実施することで、高齢者の身体的な衰えを予防する事ができる。フレイルとは「加齢により心身が衰えた状態」の事で、早く対策して健常な状態に戻る可能性がある。口腔健康への関心の低下や心身の予備能力低下につながり、廊下につながる。口腔健康の悪化が歯周病につながり、糖尿病や認知症、誤嚥性肺炎との関係も指摘しています。すなわち、口腔健康を維持することこそ、高齢者の健康を維持することに繋がり、医療費・介護体制の維持になるのではと考える。調布市において、調布市歯周病検診・高齢者歯科検診など歯科検診を実施している。早期にオーラルフレイル対策を実施する事で高齢者の健康維持につながると考える。今後も、シッカリと歯科医師会と連携すべきと考える。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
文中に記載。		

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
調布市 市議会議員研修会 （令和6年2月9日）		
「これからの超高齢社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
調布市歯科医師会の中村先生にご講義頂いた。歯科医師のお立場から、日頃より市民の健康を口腔状態から観察をされていて、現状をよく把握されているお立場からの生きた内容であった。 冒頭の言葉通り「歯と口腔の健康は、全身の健康の保持・増進に深い関わりがあり、今後、さらに歯科口腔保健に関する取り組みの必要性の高まりが予測される」ことから更なる施策の推進が求められている。2024年、本年4月よりいよいよ働き方改革の最後の障壁である運送業と医療においても上限規制が厳しくなり、市民に対する医療サービスにも少なからずの影響が及ぶのではないかと懸念がある。であればなおさら市民一人ひとりの健康寿命を延ばしていく必要から、予防医学的見地からの健康施策こそ重要な取組である。さらに2040年問題は団塊ジュニアが65歳を迎え、全人口の約35%が65歳以上となることから、高齢者の介護・医療体制、介護費用・医療費が増大し、ひいては労働世代に対する負担が猶更高くなり、それを軽量化すべきことが、介護や医療体制等を維持していく上で必要な事であると考えている。 市の後期高齢者歯科検診での内容は①口腔正常状態 ②口腔乾燥 ③咬合力検査 ④舌口唇運動機能低下 ⑤低舌圧 ⑥咀嚼機能検査 ⑦嚥下機能検査において、口腔機能低下の判断から改善指導につなげる、また、虫歯は特に要注意であり、歯肉炎・歯周炎に進むと認知症や肺炎といった次のステップに進む可能性が高くなる。また、歯周病の治療で血糖値の数値が改善され、糖尿病リスクが減少するという。歯周病から誤嚥しやすくなるといわれるが発症するが、市内での肺炎発症率は31%で、都内でも数値が高いそうだ。 そういったことから、現在市では市独自も含め、35・40・45・50・60・70歳という節目に検診を行っている。35、40、45、50、までは5年おき、その後は10年ごと定期検診を行っているが、生涯自分の歯で食事を続けるためには、55歳での検診も追加した方が良いということであった。		

世間ではかかりつけ医が普通となってきた中で、歯科はというと、痛くなり困ったときだけ通院し、完治したらまた離れていくという特性がある。継続的に歯のメンテナンスを行うことが重要である。

物を食べる。話をする。という機会を大切にすることは、外に出るためにきれいな服を着る、おいしい食事をするという生活行動に繋がり、経済活性化にも寄与する。口腔内の健康を心がけることが前提であり、歳をとってもずっと自分の歯で生活することが QOL を高めることになる。「口から食べるということは命をつなぐための大切な営みで、生きることの幸せ、喜びを感じる。」健康寿命の延伸により、1 人でも多くの高齢者が豊かに暮らせる社会は、すべての市民にとっても介護、医療費の負担・時間が縮減され、豊かな暮らしをおくることにつながる。ということが最後のまとめであった。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

上部 本文中に記載

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	清水 仁恵
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和5年度議員研修 「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
歯科保健の現状について 一般社団法人調布市歯科医師会による歯科保健の動向、本市の歯科保健現状や課題についての講話を拝聴した。 平成23年に国における歯科口腔保健の推進に関する法律が制定されてから約10年が経過し、生涯を通じた歯と口腔の健康は、全身の健康保持や増進に深い関わりがあるとされ、市民の歯と口腔への関心が高まりつつある中、この間「歯と健康の集い」を始め、80歳以上の20本以上自分の歯を保つ市民への「8020表彰」や市内小・中学校における学校歯科医選任や各種法定歯科健診など日頃より本市の歯科保健分野において、多大なるご尽力を頂いている団体に市議会にお越しいただき研修する機会を設けて頂いたことに感謝したい。 この度の研修では、主にこれからの高齢化社会を見据えた歯科医療について伺ったものである。高齢者人口の増加を辿る一方である本市においても、高齢期の歯科保健対策として、介護予防の観点からのオーラルフレイル対策を施していかなければならない。また、今後進められる総合福祉センター移転に伴い、歯科保健分野に求められる機能もハード・ソフトともに更新が必要とされる中、歯科医師会の専門見地からの取組の必要性などを施策に反映させていくことが重要かと考える。また、今年度からスタートした調布市基本計画にも施策11-1「からだところの健康づくり」の中で、「歯と口腔の健康づくり」が重点項目として計画事業に掲げられたタイミングでもある。 さて、今回の研修の題目となっている「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」では、少子高齢化の進展に伴い全人口の約35%が65歳以上となる2025年問題への危惧、時間外労		

働の上限規制が施行されることから、医療体制維持が困難となること、医師や介護人材不足や関連産業衰退などへの懸念が歯科医師会から示され、後年にわたる医療費の抑制につながる取組が必要であり中でも「介護予防の充実」が重要とのことであった。歯科保健分野においては口腔機能の維持・回復、地域包括ケアシステムにおけるトータルサポートの構築が不可欠であり、フレイルには早期介入が有効であることからオーラルフレイルへのさらなる対応が求められる。会長の村田功氏によると、本市における現行の歯科保健施策では往診が困難なことが課題となっているそうである。市において後期高齢者歯科健診が実施されているが、通院のみが対象となっていることから、在宅で健診を受診が可能となるよう対応が必要とのことであった。口腔機能の衰えが嚥下機能や咀嚼機能の低下につながり、全身の老化へと発展し、医療費の増大につながることも指摘された。障害者診療についても同様に往診で受診できる体制の構築が求められており、患者や家族の高齢化や医療的ケア児への対応が課題となっているようだ。また、村田会長は認知症と歯周病の関連が指摘される中、市歯周病健診の勧奨について、現行の３５歳・４０歳・４５歳・５０歳・６０歳・７０歳に加え５５歳の市民に勧奨することを推奨され、加えて健診の通年申し込みや、在宅受診が可能となること、その他、健診内容にレントゲン撮影を付加することを提案された。

村田会長によると、都歯科医師会の２０４０年ビジョンでは重症化予防の観点・地域歯科医療の提供など個人の健康づくりをサポートすることが求められているようだ。調布市には東京都の様に歯科保健単独条例が制定されていないため、都の動向を知り、調布市の歯科保健施策にきめ細かに反映していくためにも研究していきたい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

全て文中に記載。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	井上 耕志
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和 5 年度 調布市議会議員研修 これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 調布市医師会 会長 村田功氏 調布市歯科医師政治連盟 会長 中村陽一氏		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 令和 5 年度からの調布市基本計画では新規に「歯と口腔の健康づくり」が事業として位置づけられた。「乳幼児期から高齢期まで、歯と口腔の健康づくりを推進するため、年齢に応じた歯科検診や医科歯科の連携、障害者歯科診療の推進」が概要に記載されているが、歯と口腔の健康は全身の健康の保持・増進に深いかかわりがあり、今後さらに歯科口腔保健に関する取り組みの必要性の高まりが予測されるため、本市議会としても現場の先生方の講義を聴くことができたのは意義深いものと捉えている。 団塊の世代 8 0 0 万人以上が 7 5 歳を迎える、いわゆる 2 0 2 5 年問題を間近に控え、社会保障費の負担増をどのように抑制していくのか、医療・介護体制の維持をどうするのか、政策的に本市議会に求められているものは多い。さらに団塊ジュニアが 6 5 歳になり、全人口の約 3 5 % が 6 5 歳以上となる 2 0 4 0 年問題についても指摘がなされ、その際の労働力人口の減少と合わせて、インフラの老朽化に関しても対応していく必要がある。 今回の講義では、こうした 2 0 2 5 年問題・2 0 4 0 年問題に向けて、医療・介護体制を維持していくためには介護予防の充実が求められるとの示唆を頂戴した。要介護状態に至る前段階として位置づけられたフレイルから健康な状態に戻るためには、オーラルフレイル対策を行っていくことの重要性についても拝聴した。認知症や誤嚥性肺炎を予防していくための歯周病対策に関しても、今後の医療費抑制に向けては非常に効果がある取り組みであると考えます。議会としても様々な場面をとらえて、こうした口腔ケアの啓発に臨んでいくことが重要である。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		

文中に記載。

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	宮本和実
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
「これからの超高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」 調布市歯科医師会		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
今回の議員研修会は、調布市歯科医師会のメンバー4名が来られ口腔健康の重要さを説明していただきました。 今後益々進む高齢化社会の中で、老化に伴い口腔状態も悪化していく傾向があり、歯周病から認知症や誤嚥性肺炎へ進むという関係性の話がされた。 歯の健康を維持するためにも、若い頃から歯周病検診をできるだけ多くの方に受診してもらい、出来ることならかかりつけ歯科医に半年に一度は診てもらうことを薦めるとのことでした。 今回の講義では、市に対する要望ではなく議員一人一人の歯の健康についての話が主題であった。 私も現在診療中である。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	伊藤 学
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
調布市 6 次基本構想 施策 11 生涯を通じた健康づくり ～歯と口腔の健康づくりの推進～ 講師 調布市歯科医師会会長他		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
市は健康な生活を営む上で、歯と口腔の健康は乳幼児期から高齢者までのライフステージで検診を実施、障害者歯科に関する知識の習得や技術の向上を図るため、障害者歯科診療を実施している。日本の人口比率の推移をみると 2025 年問題とは団塊の世代 800 万人が 75 歳以上の後期高齢者となることで社会保障費の負担増等の問題が生じると言われる。さらに 2040 年問題になると団塊の世代のジュニアが 65 歳以上になり、全人口の 35% が 65 歳以上になります。高齢者が増えることにより、社会保障費の負担増等が生じることとなります。一方調布市の将来人口予測では今後も緩やかに増加を続けることが予測されるが、増加率は徐々に増加幅が縮小し、令和 12 年をピークに減少となる。2025 年問題、2040 年問題の医療・介護体制の維持のために介護を要する状態になる前に予防する介護予防を充実させる必要がある。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		

第3号様式(第4関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴木宗貴
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和5年度 調布市議会議員研修 「これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて」		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等） 歯と口腔の健康が前身の健康保持・増進に非常に有効であることは、以前より指摘されているが、一方で、定期健診や定期的なケアで歯科受診する割合は低調な伸びとなっており、健康診断やがん検診の受診率が伸び悩んでいることから、歯科はさらに下回っている現状がある。 高齢者施設利用者は、多くの施設で、希望により訪問検診、ケアを受診できるが、在宅でのケアはまだ限られる現状にある。 令和6年度からは、検診対象年齢を拡大し、勧奨していく予定となっているが、永久歯が揃う時期から定期的なケアを受診していくことも非常に大切なことだと感じる。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
現在、国保データヘルス計画の策定作業が進む中で、市民のデータに基づいた、口腔ケアの周知を図る先進事例について調査したい。		

第 3 号様式（第 4 関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大須賀 浩裕
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
テーマ：これからの高齢化社会を見据えた歯科医療のビジョンについて 講師：調布歯科医師会 村田功会長 調布市歯科医師政治連盟 中村陽一会長		
2 実施結果に対する所感，意見等		
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
生涯を通した健康づくりに「歯と口腔の健康づくり」が必要不可欠であることを改めて感じた 私の母は、現在、介護老人施設に入所している。見舞いに行った時に様子を聞くと、毎日の楽しみのほとんどは食べることのようなのである。自分の口で食べることができるかどうかは、口腔ケアのあり方にかかっている。 調布市は、今まで以上に積極的に高齢者を中心とした口腔ケア施策に取り組むべきであると考えます。 歯と口腔の健康づくりの現状がよく理解できた。		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
調布市の医師会や薬剤師会からも市の現状を聞いてみたい。		